

スクールホッターライオン

親子ふれあい活動

from 豊山小学校

本校では、親子そろって参加する活動を多く設定することで、保護者の方や学校での様子を知っていただくとともに、子どもたちが、親の愛情を感じ、健やかに育っていく機会とするよう努めています。

一学期には、一年生の各組で親子ふれあい給食を行いました。保護者の参加率は、ほぼ100%。どの子も大変うれしそうに、会食をしていました。食後に、「給食センターでは、一度に何人分の給食を作っているか」「給食は何人の人で作っているか」などのクイズを考えながら、給食に関する知識を親子で身に付けることができました。三学期には、六年生を予定しています。

夏休みには、さまざまな親子ふれあい活動が行われました。出校日には、恒例の親子除草を実施しました。通学団ごとに運動場の周りや花壇、校舎の横などに分かれ、猛暑の中、親子で力を合わせて雑草を抜き、貴重な汗を流しました。取った草は、なんとゴミ袋四十五袋にもなりました。

また、PTA教養部主催で、親子体験教室が開かれ、講師の方を招いて「ジュートレーター（ワイヤーに麻ひもを巻き付けて形を作る）」に挑戦しました。親子で会話も弾み、思いがいつぱい詰まった作品が完成しました。町文化展に出品予定です。PTA料理部主催の親子料理教室では、お好み焼きパン、白身魚入り具

沢山スープ、チヨレギサラダ、抹茶のゼリーを作りました。子どもたちの意外に上手な包丁さばきに、親御さんたちからは感嘆の声。どちらの活動も親子の「コミュニケーションと愛情」を実感したひと時でした。

今後、おやじの会主催のペンキ塗りやサッカー・バスケット交流会を計画しています。ぜひご参加ください。

親の愛情をしっかりと感じることでできた子は、自分を大事にして、周囲の人たちも大事にします。いじめをしない子を育てるためにも、親子ふれあい活動を進んで計画していくつもりです。今後ともご協力をよろしく願います。



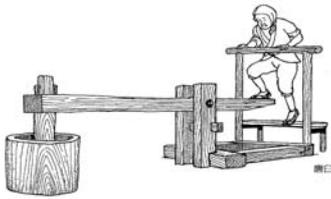
史料から 豊山

第7回

今回は、民具資料から「だいがら」、文書資料から「暦（こよみ）」をご紹介します。

▽だいがら

全国的には、唐臼からうすと呼ばれています。本来は米や麦などの外皮（米でいう粃殻）をむき取るための道具ですが、この辺りでは「明治初期頃から玄米の精白に多く用いられた」（『師勝の文化財・第三集』）そうです。



台の上上がり、中ほどで支えられた長い柄の片側の端を踏んで杵を上下させて作業していました。てこの原理を用いているので、作業効率を上げるために、杵の上に石を括り付けたりもしました。

「だいがら」は「台唐」とも書かれ、台枠のある唐臼という意味のようです。（参考）岩井宏實・監修『絵引民具の事典』

『書窓 平成二十二年五月号』より

▽暦（昭和十二〜四十二年のもの）
資料室には四種類六冊あります。それらは現在の大型掲示用カレンダーと記載事項はほぼ同じですが、本・冊子であり、形が大きく違っています。



さらに、六曜（大安など俗称で「日柄」と言われる）や、小寒に始まり冬至で終わる二四節気など、気候と生活に関する詳しい記載がしてあります。これは、人々の暮らしの中心が気候と切り離せない農業によって成り立っていたことを反映しているのでしょうか。

なお昭和四十二年の「農事暦」には、他に見られない、当時豊山地区での「営農・生活ガイド」（「春雑の餌つけ」「桑のさし芽」「稲刈り機械化」など）や、『営農生活小宝典』などの項目があり、生活とより密着した編集になっている点が、他のものとは大きく違っています。

『書窓 平成二十三年一月号』より

